

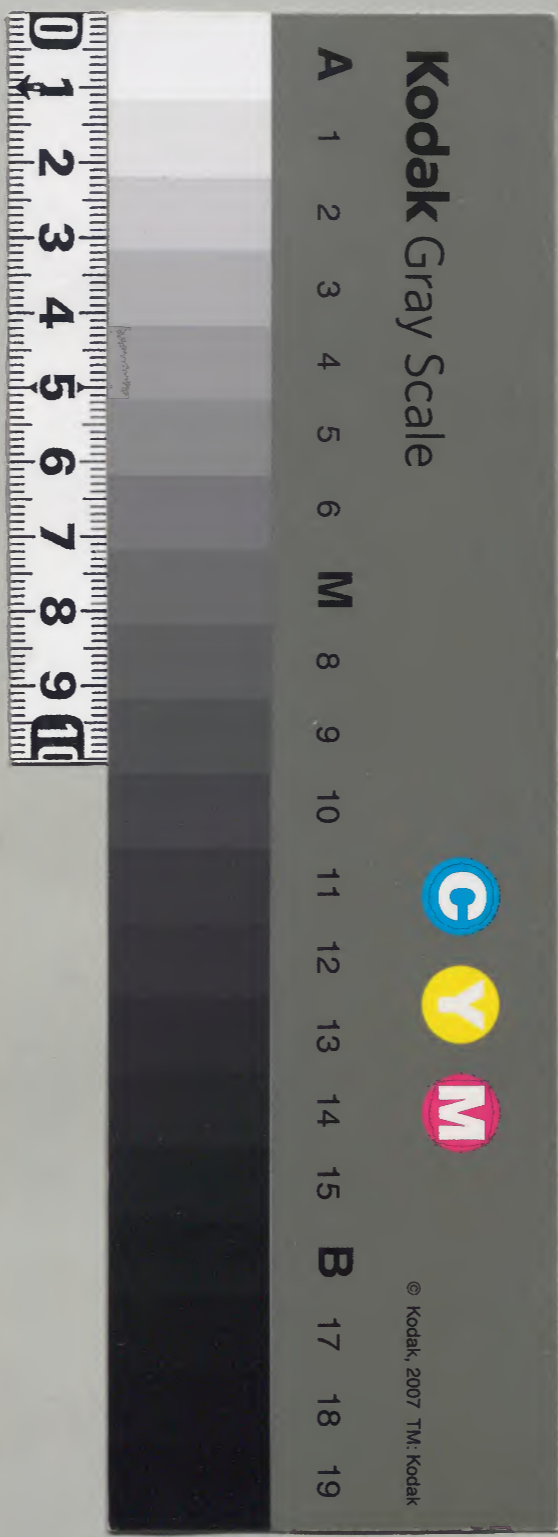
慶長小説

自十一年
至十三年

内閣文庫	
番號	和 34455
冊數	3(2)
函號	150 76

庫	文	開	内
一五〇函	一四架	三冊	三四五五
			和書類

共三



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり

この出来事は 何と

一 筑後國の田中玄孫大輔が政息之暇歳廿生付

意礼のて常子討つるを好む此は

五十二人切害止か田月林り此小姓を討つ

せんとして却ら小姓小は切殺

サわり

一 内後修理亮喜山イ様陸女系少幼氣是ハ

内府極少幼跡鳥あこ并もこふと持り者

此多らん見出智めりねを江戸支那元元此此

く中依り自 將軍極少幼也

一 此月伊多國令山根子及この出とし依後出

出給証書つるく致古百目と根百目後

令根難出小依て存積也

一 大久保石見守兵州と少代官は 仁付自是

以そのと少坂小刑部勤

一 今も其を思ふ御証歌其去後京於今其

あつるを其於其此都乃其困は 御製衣

ウ跡も此乃其於其加其み

一内府極於江戸伊達正宗亭御成爲所願

雖得圍碁風烈在涉略終早還御

十九日

一諸大名カ來弓カ上カ系カ上カ於三十三間

堂射矢數薩摩守及忠家來朝是平玄御通矣

五十一本於下年

一此月加友カ存カ明カ山内對カ了カ當カ一加友肥後カ當カ

波田三カ在馬カ冠カ禰カ海カ左カ吏カ正カ出カ右カ進カ矣カ忠カ黑カ田

荒カ前カ當カ改カ有カ了カ玄カ蕃カ於カ豐カ京カ極カ丹カ後カ當カ太カ細カ川カ細カ沖カ當カ太カ與

本平カ在馬カ督カ羽カ柴カ丹カ後カ當カ淺カ野カ紀カ伊カ當カ辛カ瑞カ海

信カ濃カ當カ勝カ寺カ沃カ志カ磨カ當カ廣カ右カ面カ江カ戶カ御カ城

由カ當カ下カのカ水カ勤カのカ名カ江カ江カ付カ正カ月カ中カ國カ元カ氣カ受カ當カ高カ月

上カ向カ各カ江カ戶カカカおカ先カ人カ數カ之カ石カ為カ運カ送カ互カ列カ當カ是

石カ積カ船カ三カ子カ艘カ五カ之カ一カ艘カ三カ百カ人カ持カ之カ石カ二カ口カ宛

入カ之カ一カ个カ月カ五カ度カ江カ戶カ運カ送カ江カ戶カ御カ城

石カ垣カ系カ七カ百カ間カ之カ或カ檢カ或カ問カ或カ檢カ三カ間カ之カ一カ

一此月於江戸カ高カ坂カ小カ刑カ部カ之カ代カ官カ所カ之カ百カ姓カ其カ爭カ論

カカ之カ事カ乃カ流カ之カ小カ刑カ部カ為カ非カ之カ一カ之カ所カ動カ定

前引負多因茲改易以 任付

三月

七日

今日江戸 御城沙菅彦初

九日

一 加茂肥後守娘九歳 柳原或郎大捕息_レ 为一嫁

園东_レ 下向正月七日九州を去同廿六日大坂_レ

若船此間在系今日波阜_レ 若名薬_レ 十五丁

但_レ 丁_レ 馬_レ 上_レ 女_レ 八十三人お取三人長柄_レ 三

五十本_レ 砲_レ 七拾挺余肥後守_レ 此日今頃_レ

泊_レ 瀬_レ 瀬_レ 瀬_レ 通

十五日

一 内府様江戸 御教_レ 加_レ 十二日御教_レ 与_レ 鏡_レ 定_レ 依_レ 子_レ 内_レ 門

一 謙倉_レ 三_レ 井_レ を_レ 掘_レ 与_レ 浪_レ 糸湯谷_レ 井小壺を

一 掘_レ 与_レ 入_レ 日_レ 持_レ 糸_レ 於_レ 路_レ 以_レ 内府様_レ 若_レ 之_レ 園东

の_レ 多_レ 多_レ 此_レ を 將軍様_レ 持_レ 糸_レ 上_レ 仕_レ 名_レ 以_レ 任_レ 知_レ 江戸_レ

此_レ 是_レ 日

廿日

一内府探發府ハ為御來年此地ハ有ハ正ハ遊
申ハ付ハテハ子ハ御巡見ハ遊

廿五日

一内府探發府 涉發是廿六日申泉廿七廿八
雨降大如天於川ハ形橋ハ涉廿九日吉田ハ
涉廿三日雖ハ涉是涉ハ為御
一觀世令去度ハ者ハ其ハ連ハ江戸ハ下向
内府探發涉涉江戸由善信ハ申ハ其ハ貫ハ志ハ
此ハ下向仕ハとハ信ハ右ハ更ハ其ハ水ハ失ハ大

四月

廿八日

一内府探 御来 内尋日伏見ハ還御ハ上下共ハ二條ハ
一寺方石ハ下ハ草ハ伏見石垣ハ正ハ清ハ下ハ勤ハ名ハ
一付ハ寺ハ方ハ石ハ以ハ下ハ草ハ後府ハ正ハ清ハ依ハ信ハ付ハ
不ハ於ハ此
一相國寺山門建立是ハ去ハ壬寅年ハ備前國令ハ
一此果以後上ハ昭ハ永ハ或ハ万ハ石ハ池田ハ二ハ尺ハ馬ハ備用ハ通ハ
一今ハ相國寺ハ正ハ内府探ハ正ハ御奇進ハ以ハ是ハ乙ハ亥ハ此

山門

一 去江内菅清中福清太馬天下女致欠池田
 三在馬中居りを福清中間見付池田内押込
 産所前ら存く下女を搦れ池田中間今福清
 中間を搦て福清す控曰江内菅清中
 不可致喧喚人は打れ其の堪忍ッ人を打
 いさくいり一族をこの死罪とはさく交ゆけ
 不及是罪と存く女并中間を引寄致成販
 存く搦れ者を不ッお搦不ッ者打檻と中是

福清縁と葉草其く浦子人々所知也今後之

神妙末後奇特也とか及肥後考江中口

五月

朔日江内菅清中福清太馬

一 柳系七帝女悔つ病死

十日

一 松の丸の所並丸松子ッ其株考改易は

後付是を伏見言討死く松子并馬二也

甲州流為山と中人圍打こ色るる是

付く清くくくいの子海ありき上中のみ
よりまきく曲りし思るらる也

十四日

一 柳京式部大権康政死 歳五十九

十五日

一 今日大風自多州運送る石船数百艘破損
瑞海信流石船百二十拾艘加藤有る船石船
四十艘馬田有る船三十艘其外三艘
五艘不仕傍敷

一 幸万石百人持石二ッ宛上ツテ予々をて為心
以先申付各及此後

六月

朔日

一 於江戸 若君極清誕生 清名と國松孫と奉

一 御奉卦大壯 ䷗ 乾下 震上 清流く水揚流大名就と

一 涉礼

四日

一 某ル七月廿日午後府内管轄で始る名災流

尾張北條遠江二河に去り雖もお觸れ来年
正月より二月に涉延門より今日又改稱

十七日

一 今日舊州文移の記也代官山本小左衛門此日
俄相承死昔志色利宗の神の子石附の福徳ハ
悉く放一糸母の神の福徳刑部は死後神罰を
此年六十人持持附し未社一字も居一ッ建立する
異本其長十二年冬福徳在徳去更息刑部
礼部より注目を語人ハ該炮打掛人之家

一 該炮放入するに為父死葬礼の志似を有る程
亦下務斗及馬の更より使を該府に中上教書
是之を州之に傳ふ神の没収し之を知り
之を神罰と法人の呪詛

一 此頃長崎に馬船着三浦に七小馬船着此船二隻
系一万石より護府に二艘着紀州に小馬船
着

七月

廿七日

一内府極 御上洛伏見二条御城 以後涉庭

一此以院御所所 菅清長長 紙子中納言殿原 秀以人

殺勤一

八月

二日

三日

一五日於京二條御能多一 初日親世昭能二日

今幸古

十一日

一五日在昂殿一 右左衛門督長福殿一 左衛門少

補任一 叙從四位下異 今日一 示内

一内發修理亮一 山左衛門少輔 御劾氣 御免

廿六日

一西尾隱岐守一 吉成死 歲七十七 母一 子酒井右衛門少

忠才一 忠為一 孝子 祢丹後守

九月

廿日

一國雲極御宮一 示

廿一日

一内府標二条分江戸に御役加す

一伏見より越前中納言殿康房有在留台

内府標に侍出

廿三日

一江戸御城法曹法出来 將軍標御移法

大分法務獻上法礼々々

廿七日

一武列戸田急下 御鷹飛

一於京於茂法曹法々々 禁中より方石氣地

石垣に侍付二條に御殿茂法曹法々々

経美より後西園大名京勤より惣事法々々 越前

中納言殿也

十月

六日

一内府標駿府に法為 若由城より場々より前

崎理急と云前年より法曹法々々

廿六日

一内府極後府を江戸に御後加る

一駿府城場を存し清定又お替へたる

御城の月名を清定は但南州に少くして出也

を度取安部郡三郡に境を而建之

城也

一此月伊豆令山之蒙りて伊豆中を立札治

より下者不^かを教

一勢州長鴻城之管治志摩守に之仍去りて

十月於系於死去才三才同在道

後祿細部正定也

政式は 信付是を在道在江戸仕

將軍極に依勤仕也同宗女を離り志摩守

才二才才在鴻才在江戸に未出に付政式

不^か 信付此以宗女江別にお紙^{留江別信}居り不^か死

十一月

二日

一薩摩守殿 春中々所煩大久保加賀守其屋浦

は成涉度御養生今日俄に涉終入一財斗に所養生

醫問作玄調未と涉茶とに御涉岐家

四日

一内府標江戸口御着

十一日

一越後之堀左衛門督秀子元服松平御称号并

御一字以下任侍従称松平越後守忠俊異廿二日任侍従

十五日

一里見梅露丸元服涉一字以下父去子去年元

廿九日

一河越口御着羽立晦日依還御

十二月

二日

一为御着舟東筋口出御古河下妻佐竹筋住

巡見河遊是也内府標依御矣見也

八日

一伊達正宗娘上総女及忠輝女上総女及新口屋敷

入輿

一國書殿涉加及新右市内及仁多御天飛傳右人

大河内令七未也但令七五預取果川後小塚右馬即也信角

一 國松殿 初之日 信付水小收之、永井之膳、秋田
三平橋本若平後、信付少字伊奈牛、之助
佐助、三日市

五九日

慶長十二丁未年

正月

朔日

一 於江戸 諸出仕也例

一 於江戸 内府様之姫君様法誕生

後伊達正宗息子の姫
は物由母を永井波子也

二日

一 内府様御病癒法種類

六日

一 江戸大地震他國々不震

七日

一 自今日於江戸三日打續能多々
祝世八去年十月下
今妻八去年十月下
能く初日祢田下町々出火貳百餘余焼夫

廿日

一 江戸大地震上方より不震

一 内府極沙祈禱より清連歌玄仍多之

源や々ふ水のゆてふ妻の宿

是ハ若くたうせりふと事祝てふハ詞の字也

一 三階摩多殿忠者去六日清洲殿是今日江戸も忠

一 常陸外殿形宣 旧冬々疔瘡此如湯羊金酒湯

此懸

一 加茂肥後守清正九歳より男子為人質二三ノ身

在江戸より此疔瘡瘡お能死去

一 此妻 内府極沙中同路大賀孫左衛門自害是

銭室ふ之々志也能伏見中同路之根孫

より其園東儀よりこの渡をと方儀より渡り

より其より出目大賀引負より成る是を可兵

中より信を無理と心得自殺也より下哀臨り

二月

十二日

一 於江島依和山井伊右近左夫也勝家中一初

勘多海路亦云左夫孫見 依口論致喧嘩

去壬寅ノ事多於少補也政死云々懐中ニ成争論不絶
去ノ自 内府極涉通之良政 清守石見を依和山也遊放去
年又 内府極涉力之良法洲ノ園東石見を以 石見

十三日

一 送今日於 御奉丸為之丸之石親世人之喜五劫之

能 与清而極之涉核發法大存之核發も設之

知以役也但喜石付永樂之貫文也但劫

進能之時曰同之劫進後百廿貫文之核發

後六十貫文之喜人我捨後竟之石

後出以給其左夫也やくこ誦極も在依右石

亦少送進之申中札を不立人亦少門て劫進

後を以河後永樂後也

十七日

一 諸大名之家中弓之達者於京東山三十三間

堂を射薩摩守殿家中上田角右門百廿捨

六奉射通天一也

廿日

一 於先度之能之場云と云歌舞妓女之勤を歌舞妓

一 從朝鮮之事扱之使の事申宗對する事迄を依り

一 路次中泊る小おわく池を乞のろ支度する也云

一 空之事甚く後海難成おる及延引

廿六日

一 薩摩守殿より以ておれ所より枝葉なるり

將軍標出仕也 内府標も發了有出仕名は上

内府標發府に 此後加る前為此五込する方之月

之空 涉返

一 薩摩守殿今日より大久保加賀守に常宿の此迄留

廿八日

一 大久保加賀守より之屋敷に 内府標も入薩摩守殿

此病之業 涉返

廿九日

一 内府標從江戸發府に 涉返

一 相州中系此書飛 御殿へ令之令天目水指同柄抄

同拓抄並茶酌紛失之在之由昔流今田勝七
掛川ハ 落合長化田中 是部後十部沼津 若由部
翌日有之谷之蓋と救小治一 是是を兄出
言上是是ハ之取过水撲兄物之由昔流出之申
紛失之申之

三月

朔日

一 越前中納言殿 秀康 從伏見越前ハ 市向之旨
以死抑發府ハ 信上是ハ在伏見之兩人殺之

駿河内管法管法甚之可也

五日

一 薩摩守殿 右左 卒去 由事共ハ

一 薩摩守殿 卒去 付为同法持候去并大炊政勝

道中ハ 是是是

一 薩摩守殿 卒去 和身和子監物 監石川主之殉死

一 小笠原和身守子監物薩摩守殿 乳母子也 去之京 甚高

一 奥羽松浦信之処今之及江戸ハ 馳来殉死

一 監物小治ハ 依之京内志切腹

一 江州佐和山城五井伊右衛門左衛門兼左衛門督 後稱 母國東
下向先上列安中三ノ居任之旨 内府極
信出給彼地为私所也

九日

一 駿州貞國寺城五天井三郎多海 康景
此領所回系村ノ百姓ノ争論ノ儀付百姓
之人殺害之有之 此代官井ノ是助右ノ死
骸をニツニツニ切分 内府極沙通ノ道筋
控置大務此切殺り候中ノ 内府極沙

涉之ニ高多海候此用ニ立口随多ノ者此在
涉勝氣ノ長仕方不届此 思召之ニ百姓在
不候此 思召天井父子涉改易組ノ遠州此
本多作渡之此附伊賀此割り此是此大務
此附

十三日

一 内府極駿河此 御名

廿日

一 薩摩此殿此葬礼増上寺住持源兵衛此道

性光院殿玄白大禪定門之薩摩守殿者小
成田就高寺内宗敬日相々来禪沙汰以此度
内府標上意より於増上寺送葬せり

廿六日

一 畿内及び丹波備中近江伊勢美濃之
給人内代官五百石一人共三人家々積を以
駿府内管領のお勤り先伏見より三河相長持
以下駿府への運送名は船去江内内管領お
下らぬ事並直寄事
初所所より海より

一 此月江戸 御城涉經營関东流勤より一万石役
より石二十坪也 一坪と云ハ一回
は方々第ニツ也 是より石船が般宛
借取ル上品中濃色此船より石を積一ヶ月
五度宛江戸に運送

一 薩摩守殿家来駿府より内管領お勤者共
將軍標分涉内院より 位より清洲に取らる
諸事より内管領出立より中々増
内府標分 位付有る者共途中に駿府に立戻
内管領勤り

一 駿府市營請お勤事々中濱松掛川畜田是請元
之朝鮮人為池池乞在所々の法均各以付

四月

朔日

一 今日月日 御城御經營初ル園八列安房信濃

越後奥州出羽流勤々園東流百萬石を貳拾
万石充み々分て八拾万石ゆて石をよせ貳拾
万石々々天守々石垣を築々奥州流伊達
正宗上杉系勝浦生秀新宮上義光依行

義宣越後元垣左馬ノ督秀治溝口御者
秀勝村上園防当義明存々石々百万石
河茂沙堰營請勤

三日

一 伊奈備前当死々祀獲生々後本復

一 江戸御城請營請々園東流二月々々地勤定

少々此以所扶持並以下

一 去年々々石垣高八間也六間々々石二間々
切石也此切石を除々又貳間築々々々在

切石を積合ふ積石と成て惣古居也二百
と云ふ古居之上八間之石垣也其古居
之廿也度廿八尺拾石方也

三月此月内後三及也信成改設府江州長濱
得留法 信付堪新築之其法取此強
江州人出 勤之設府也
内府極御居城之可成者也

国記月

八日

一 越前申納云秀康於越前少之在尋云四年

多三州大樹寺十八代之任持宗興云越前川導是清代之依為清寺也證表嚴道惠大居士

一 申納云殿小姓在馬所尉家田村令之街女諸之身也切腹古屋在馬所

家田村令之街女諸之身也切腹各殉死

一 本多伊豆守歿之殉死之如法留依以成不能之後

廿日

二月廿二日一 朝鮮信使去月廿一日京若當月二日京致是

今日江戸口至若信使呂祐吉副使等還暹
送事丁好寛也是を三使之上之官致人

中官二十六人、其下八十口人、下百五拾口人有、内
先年彼國に出入時、跡を居住志する日本人も
かく付来泊るる者、山佐初山大垣、清洲、岡崎、濱松
掛川、菟枝、清見寺、三浦、小田、系、友、沃、神、系、川、也
路、次、中、朝、夕、水、池、を、法、所、而、所、代、官、を、勤、る
鞍、馬、を、百、口、六、十、小、河、結、る、二、百、又、余、人、是、二、百、人
餘、也、鞍、馬、を、河、次、中、城、を、出、る、而、船、橋、未
之、付、三、役、を、系、扱、る、系、先、を、人、船、船、を、系、扱、る
系、扱、る、出、物、を、並、右、系、扱、る、た、る、る、人、形、の

花を扱るるを、是、是、指南、車、に、於、り、終、終、試、み
日本、の、系、扱、る、系、二、役、道、路、の、た、者、を、か、つ、る、は、終
初、儀、神、妙、也、大、鷹、島、五、十、連、居、来、河、も、尾、羽、を
切、き、り、河、小、く、お、ち、江、戸、に、廿、計、連、来、る、路、次
く、城、主、を、脅、怖、を、出、以、迫、江、戸、に、法、所、に、脅、怖
ハ、江、戸、を、来、ル
一、船、群、陣、に、耐、生、捕、る、男、女、此、度、百、五、拾、口、を、悦、び
無、浪、道、中、馬、を、急、き、る、多、死

廿二日

白字布 黒麻布 赤字布

一 宗對子布 順子 五十卷 細布 五十卷 献之

十四日

一 朝鮮人 漢江戶 及 及

三使 各白浪二百枚 上之官二人 各白浪二百枚

中官二十六人 各白浪八十枚 白浪五百枚 及

廿日

一 朝鮮人 於 駿府 御城 内 府 極 御 目 具 之 之

物 依 不 免 快 高 度 之 所 卷 物 持 之 御 城 内 卷 物 持 之

依 未 出 身 而 刻 退 之 於 本 多 上 野 以 正 純 定 水 振 旦 々 々

一 今 晚 朝鮮人 友 枝 御 目 具 之 之

廿三日

一 駿府 御 城 内 根 石 屋 初

一 伏見 御城 三年 普 初 八 月 十 二 日 可 智 名 之 之

治 出 組 頭 之 一 年 智 名 内 普 初 之 三 年 智 名 出 未

年 之 渡 多 山 城 之 一 普 初 之 御 目 具 之 之 信 付

廿六日

一 年号壬申改親吉甲州を尾州清洲少丸に移
本城を薩摩守殿奥方お知子今依力を増也
一 駿府江戸両管清よ下事懸下く者及映
眼不見を致殿方ハ

六月

一 此頃於系郎 内府極々 御印を去る似板倉
伊賀守暗重而持系傳るを少申る者あり
伊賀守不思考其被官者又付く改るハ
盗人也印判形申る者ハ洛中く者也印判

一 持系く者ハ系く者あり以て少人ハ改敗
一 朝鮮人本泉と云侍小孫宿の時くこの
子在礫打合ハ此頃所く行急合ハといふ
町人あり朝鮮人見りる毎年より嚴密打合
くと付子存く内き力の者打合子存を
打殺りて款をとて取て力をぬき切伏者
を元返を朝鮮人見て日本人ハ町人を武勇
也と恐怖し

七月

信付

口日

一武列岩付城焼失城主之方在追_レ為

上使以之方河内守白根五百枚_レ下

十日

一此以_レ五上_レ御罷_レ終_レ御平金

十五日

一駿府津島藩領_レ為出来二_レ九_レ中_レ未_レ出_レ其_レ西_レ至_レ尾_レ築_レ九月_レ中_レの_レ為_レ出来_レ也

一駿府津城石垣_レ之事_レ本_レ九_レ百_レ和_レ拾_レ四_レ石_レ方_レ高

四_レ天_レ守_レ其_レ高_レ拾_レ三_レ間_レ也二_レ九_レ八_レ百_レ五_レ拾_レ間_レ也

二_レ外_レ内_レ外_レ入_レ庵_レ合_レる_レ子_レ間_レ也二_レ九_レ七_レ百

間_レ中_レ本_レ九_レ内_レ石_レ垣_レ之_レ式_レ七_レ百_レ或_レ五_レ百_レ之_レ所_レ後

之_レ々_レ

十八日

一禁_レ申_レ極_レ合_レ津_レ太_レ刀_レ馬_レ代_レ合_レ或_レ板_レ給_レ子_レ拾_レ毫_レ後

親_レ五_レ極_レ津_レ左_レ刀_レ大_レ馬_レ代_レ以_レ遣_レ

一廣_レ橋_レ大_レ納_レ之_レ勤_レ修_レ中_レ納_レ之_レ各_レ津_レ小_レ納_レ二_レ之_レ

存之小園之流大名町人寺社方也移之
 涉流儀執之進之為帳三卷之教多之
 略之存之養老柳系伊豆守之山民部補
 石川之度政西尾丹後守永井右近左之城守
 一從將軍極御左方一腰涉馬代白浪子枝以給
 三十匹惟子十匹單物十匹總女殿古御左方
 一腰御涉馬代白浪百枚加多いき計百把細後
 布百疋衣遣之
大養老永井
大進守
 一太保中換雪酒井雅市政右并大炊政右坑燭

五百挺友堂和名守白浪百枚中多依後守兼金三枚
 存之通狀也
右養老志
西尾丹後守

九月

十二日

遠州横須賀城之松平出羽守右政
本姓大
次男 卒去
 年三十一
息男
好玉 右續横須賀城以下

出羽守実守柳系武部大補康政嫡子
亦祖父大次男為常守為守子

一 去以松平隱波守之勝伏見下
 將軍極小養老右近左依是於内膳于外書子流

此名也伏見城中沙道具沙水改是

内府標依沙 依付也

十月

四日

一 右江戸姓君標以誕生

後身偽女御

沙中卦明夷

☶☱
離下
坤上

一 内府標駿府分江戸に沙改加す

一 伏見居住に沙迫りし軍各所順以不從江戸

駿府に沙為城に是の致し去る也 依付

十日

一 内府標江戸に御名

一 内府標分 將軍標に黄令三万枚白浪三万

三千貫目沙渡從西に丸 御本丸に運

一 將軍標此以 内府標に為入沙茶に今有

上松景勝伊達正宗佐竹義宣各所お伴

十八日

一 信濃國飯田城主小笠原玄就大補房政妻室

鹿瘡炊率去る也

内府標沙孫女あり

古三郎殿信康息女也織田敏上總女信長小
孫女也信長之息女也今存生言系於信康
廿日

一内後修理亮清成病死跡式を力同心を嫡子
若狭守清次に付修理亮ハ 將軍梅津知少尉
此郎左今勤仕也

廿八日

一内府極今日 將軍極口為入清茶を合する

十一月

朔日

一内府極為水看多形浦和川越忍ならず口出清

十二月

十二日

一内府極駿府口清海城

十日

一壽命院 古道三子醫師之上也尚阿文字を延言也十日
おぼへる死云

十八日

一關東北山伏等と云言天台の寺家ありと云

あつたが中多佐渡守亭對史の佐也本多
佐渡守谷善河孫守自にて終り同著者
吉田宗系新是を筆記せるハ出家方緒
成る大辨を關東中にて百歳以來山伏の
先をせり年々入るとして毎歳一度々寺に
役録をせり又死人の吊りて寺に
釋多あり吊の道具と懸りて死るを
是年白馬と申すと申て不出渡を乞ふより
是派とて前代の通へると申といふ

不出りる關東の先達とも目安を指し
ある出家の方ハ武列浦和の玉藏院
看海僧正といふ人出て對史は山伏と
申す者より例ふまじく役録をせせと
申出家かこよりハ先を方達の名をハ
山伏とていして申す者子を能はと
名付けしハ何れを出家より役録を
何れいふを何れよりいふと申す者
取らんと申す者いふよりいふの

大御堂殿と申て公家門跡親王門跡此所
日光山の所別當とも兼帯ありし時ハ
京公方鎌倉公方此を枝ると此所ハ
院家も是と公家流或も公方の所子又ハ
白皇子乃此所ハ時も又上杉管領又ハ
公方の所ハこのまきりく小寺ありて
補任也然るも室徳乃此所ハ鎌倉
寺通寺も成鎌倉亡而も成りて大御堂の
此所跡と此所とありて寺滅亡ありて跡

をうもよ加申大御堂ハ大うく聖護院殿
三宮院殿ハ此所跡あり兼帯ありふり
此下の院家月輪院僧正美東の山伏の
小寺此所ハ此支配あり大御堂殿た
のり院家此も鎌倉亡叶皆昔の寺
寺を引て五所院も武州あまを移り
月輪院も同所ありて移り此後ハ
美東此山伏先達は月輪院僧正支配也
寺此ハ美東の所ハ此所ハ國の跡小

冥而る人乃彼来のふ叶然其山伏を毎年
峯へ入る小子細く冥而通るる流出家
上方本寺系勤學子道性来小と山伏を都
上下に又官位の家と田舎にふふ叶系終へ
中と山伏者峯入小終てあつて或は學道
道小と山伏姿をかりて多は来しおひを
貝を吹と宿をくりけるや乃るふよりて
山伏へ没後かし中今流を平の御代小
冥所と此水在終かの月輪流と中て山伏つ
流家と絶く今かの跡よのつ達の妻輩の
山伏を立らるお家のかいよるも没後を
及きやうあしと中り山伏負らるる
務よ成中

一 釋多寺方へ系帛の道々を
位正子細安し中釋多と中上宮女子の
御時を日本に
祈りりておをかくる
流るるま
冥而る人乃彼来のふ叶然其山伏を毎年
峯へ入る小子細く冥而通るる流出家
上方本寺系勤學子道性来小と山伏を都
上下に又官位の家と田舎にふふ叶系終へ
中と山伏者峯入小終てあつて或は學道
道小と山伏姿をかりて多は来しおひを
貝を吹と宿をくりけるや乃るふよりて
山伏へ没後かし中今流を平の御代小
冥所と此水在終かの月輪流と中て山伏つ
流家と絶く今かの跡よのつ達の妻輩の
山伏を立らるお家のかいよるも没後を
及きやうあしと中り山伏負らるる
務よ成中

唐へは渡りて初る釋多々々々々々々々々々々々を
此里か其具をを此るを子法感文此秘教
多々々後福多樂人々々々又か々々焼も渡る
大工と渡る但大工ハ釋多々さきに渡る後小
くくく者其初と日本小不通りるかの釋多
万る中々々々々々々々々々々々々々々々々々々々
喜樂の中々々々あもつやまもつやま喜樂ゆいを
己う下とハ此時々々初る也文ニ於於の
此時のる中々々々々々後かきらうる源多々

たるを社々寺々の掃除のこの小山小を多々
々の遊り飯小多々々々い中り也何務小るの山
高形小谷のこの此地の地國のつる
め々々々叡山の大神人皆是寺々の掃除
のまもめこ此々々々々々寺々々々々出入掃除を
此りらう々々々々々々々々々々々々々々々々々々
多々々々例の多々々々々々々々々々々々々々々々
と中りる自今々以後此所の多々石をさ々々の
つるのハ五教院傍に中勝に抄事小りる

此より少くかへつて、その如く右子河の門まで
淡文の出おはせし也といつても是を歎感也
佛道の故実甚細に申すに、長きこと成と
す、中致致なり也

廿二日

一 後府御城大火

一 堀丹好当の元前、人殺石まゝの火消し

一 内府極茂、法感後所加増を方石以下

一 中山太助早欠付、露松殿を肩返り是を

御感後露松殿所書、法感付

一 女中数百人焼死

廿三日

一 内府極今日竹腰小傳、二九を登浦

一 御移小傳時、自廿斗也母、内府極に申す未仕、子

廿四日

一 内府極今日本多上野、二九を登發、御移

一 内府極日、御奉丸焼跡、法巡見

一 今度火子、焼お白雲、此書是志、九年

越前：出河人屋敷人若キ人十人をり侍七
八人其来りし方より其女七八人引連糸屋に入
盃を飲中さんと云信の男ハ捕へり樹に絡
り付刀を捨て聲を立一切殺さんと云お右に
女を糸屋に控置日暮りて逃歸る所とも
ふち志りくく沙汰もすく糸屋に立寄
見たりあり彼指藉衣の宿るを付く均
中と付巾紅明沙汰及此後

一松平隠岐守長中が伏見御丸に立城御召冬

可お渡世沙汰家中に彼方本丸を此に前
田守居定番也と外松丸を初丸に此番
関东流

一相國寺亮長亮 當時 内府様を討つ氣あり洛中
洛外寺方より寺に丸を上げ上合圍以下

叔ヶ寺 押所 去子四秋分後病此以遷化

一近辛切支丹といふ宗門をわけて後房を
寺を立法遣し佛法をきくとい神道を
誂り仏神を火に入勢あり神社より余り扉を
去り法度もふく法遣人ありてを

十八日

將軍標今日仙石越前守等 日 御成

一月後 將軍標駿府 日 御成 清為所見已

所使了之中山國也 將軍標一處

清系府台等 日 御成

一 水師對了 將軍標 日 御成 將軍標一處

將軍標 將軍標 將軍標 將軍標 將軍標

將軍標 將軍標 將軍標 將軍標 將軍標

一 將軍標 將軍標 將軍標 將軍標 將軍標

西國中國 將軍標 將軍標 將軍標 將軍標

福澤如也 將軍標 將軍標 將軍標 將軍標

廿七日

一 秀形 將軍標 將軍標 將軍標 將軍標

三月

三日

一 駿府 將軍標 將軍標 將軍標 將軍標

清系府台等 將軍標 將軍標 將軍標 將軍標

日

一 破薩摩寺殿 忠一 周忌 浄法事 於増上寺
子部經所執所

十一日

一 駿府内言請出來 内府標浄移後 大小名
所願く 浄楷 然と

一 此月 浄達 越前守 西宗 杉年く 浄祿号 以下
其改隆 勇智 於 常陸國 龍岡 海を 方石 以下
一 大名 保石 見守 長安 浄溪 以下 向此 山 浄為 以下
不出 以下 穴 海 底 以下 地形 と 同 變 以下 水 以下

穴よ入 依 難 掘 也

一 和列 多 武 峯 大 職 冠 以下 本 像 破 し 血 流 出 豊 國
く 社 司 萩 系 神 祖 依 系 新 念 仕 也 元

四月

八日

一 今 年 破 越 前 守 納 云 殿 康 一 周 忌 又 此 左 房 殿
七 回 忌 所 吊 後 々 々 浄 寺 若 合 日 付 中 納 云 殿
浄 法 事 八 上 總 國 浄 誓 湯 之 変 殿 寺 七 甲 寺
建 立 浄 吊 々 々 々

一 此月福壽在御子刑部死許妻之玉後是則

下向是々 内府極之清姫之武則冥宿城

松平因播書康元娘也

一 奥州南形及松前之金山出來之也 依渡書人等

弟叔之安取也

五月

六月

八日

一 伊賀國上野之城主筒井伊賀守定之次父子

内府極改易法 依付奥州岩城 此是書并

在系亮忠政 依取是々 伊賀守被宿中坊

飛彈守秀祐内 伊賀守不之我々々々 後府

依改換也

一 中坊飛彈守秀祐系良在御子 依付

一 三浦監物於和州郡山城原口方在御下

此三浦監物在御國之江國又依系能之

下日本多平八子力之内 御子石取在御右門

子之御子双之良量之御子

内府攝所小姓少々此輩是々々々又此者攝所
系圖三浦大外義明子依系十郎義連依系
元祖也三浦之依系と申す本係是々々々子
盛連 任是江守 初之遠州 末之子光盛 又任是江守
其後子孫を州より居り此北右馬より後
之候妻申上之付矣州清陣之付監物と
三浦より成り出番に 任付小田原之形大將
渡之者ありて監物より附是年申多後
任付

一 酒井備後守忠利死去
一 紙着國郡中納言殿 康息女江戸に下向是々
毛利輝元息男友七為在江戸に知彼方は為一
は嫁也
一 前田主膳正利宗和氣三付所城丹波郡篠山に
没収す 内府攝所 任出は是々々々

女之相亂家老等を殺害し京師或之近江
 礼部下各口を以て打擲しあふ依り及此等
 一月卒多中務左補忠勝 伊勢 桑名 奥平貞純等信昌
 加納井伊右近左直勝 近江 依 堤江戸心
 御使伊賀國上野城三清等名は信昌但
 伊賀守家中より者并成實等異後心在牙
 何方、成等て等名は 信昌

七月

朔日

一 江戸今、御使今日桑名加納 桑名
 上意之甄中渡堤左依和山 和山 取紙
 五日
 一 桑名京加納依和山 和山 今日伊賀國上野
 取紙
 八日
 一 桑名京加納依和山 和山 上野 和山 取紙
 一 於駿府淺間寺隱外及能奥 和山
 十日

一 本多中務大輔忠勝奥平貞光等信昌并伊
右近左美忠勝上野城遠水に本丸二貞光等
居二二三丸中務大輔等部少輔以園居
廿日

一 伊奈備前守尾州^口为拵地目代糸巻村里
々々出陣

廿六日

一 伊賀上野城に井伊右近左美忠勝奥平
貞光等本多中務大輔等一の々攻國々々

淡江戸飛節到來依々五人殺是

廿九日

一 當年伏見^口番頭水野市正忠等出陣
々々殺是

一 此月飛多井等お々松下争論々々松下
鞠々許出々以後不謂申飛多井は多々
飛多井お出々亦鞠々許出々申織田信長
豊后守乃吉出付々不持々各殺府^口
二石上依々飛多井理運^口 信付

八月

十日

一 諸国大水七十年来無比類之患之故至堤
破村々如海浴中水入人多流死故至秋乞
ふて務斗三列以东播州以西等子之識
一 將軍標從江戸駿府に御教知す

十二日

一 全委法市 五節八 系玄卒去
依遺云葬礼に供
養せしむるに送す

廿日

一 午刻於駿府 内府標 將軍標以天守内

普濟場に出陣以天守打樵沙大工中井大和守

勤し棟上ニ又又幣三本 何首 檜板 弓二張 并
澤物也

矢立之り終り中井任法右吏所知行下

之と上取左刀目録に河津子貫文浪子袋入

一袋二
十枚入 油燈之と流職人取左刀打寄以列

お木之り之各あり等

御天守換所之事

石段 拾石 十二石 但七石 四方落捲り

二之辰 拾弓 拾二弓 目弓 四方弓

四之辰 八弓 拾弓 目弓 照屋根 破風 鬼板 河袋白流

懸魚浪 七ノミ 廿九口目浪 訂隠目浪

五之辰 六弓 八弓 照屋根 唐破風 鬼板 河袋白流 懸魚 簀 逆掃 訂隠 河袋浪

六之辰 五弓 六弓 屋根 破風 鬼板 白流 懸魚 簀 逆掃 訂隠

お尻之辰 天井組入 屋根 洞 以 逆目之

軒瓦 減令 破風 洞 懸魚 簀 浪 節 莫令

破風之 逆掃浪 訂隠浪 鴉吻 莫令

廿二日

一 將軍標之 涉旅宿於駿府二丸常陸女及能

與引

廿五日

一 内府標之 將軍標之 為 入之 涉 答 膳 行 平 下

涉 右 刀 之 巻 之

廿七日

一 於駿府 淺間 能 之 今 孝 父子 親 世 實 生

令 劉 勤 之

廿九日

一 清大方標七年忘法法子於傳通院子於經
所執新松平隱波書定勝松平致中書定統
古井大炊原利務お法

一 此月西國大名危為此移從之清祝之發府
未之白銀式百枚或二百枚 何ソ 之

一 友堂和泉守之虎伊賀國相於 筒井 松平國隱

康室丹波篠山城於相於 古乃石
若田也

九月

二日

一 淨土宗法華宗法論之

是之此法洛陽妙滿寺之僧於樂院日經
中僧冥東下りと總國又居住致之民不
道俗男女をよめ法談致之辨又法宗云
得道と云ふを中一又日くに説法して種國
群集して中小浄土禪天台を誦する者
迫國へ渡り談議致し法宗をよめ
法華又入此僧廣く學解を多し是を
生得矣旨明しして日又何せ法宗を誦

比得其人者る不辨爰小者州悪子と申す
子母寺と云天台此學通る彼通る日經
系天台を祖聖教日法談致しん付て
子妙寺使僧を立他宗の學志を五方
判者闕る不_レ出_レして法問の多と申_レ然_レ不_レ
日經日比の口と云お遠_レ於_レる_レ所を立_レ通
比_レ才と致_レり_レ身_レ且_レ形_レ其_レ中_レの宗論は_レ法華
宗の威勢をも_レ出_レんせ_レり_レ何と申_レし_レの宗論
聖_レ小_レり_レの_レ何と云_レ淨土宗と宗淨は_レて

上標を法華宗と法度存り_レる_レ今_レ如_レく
田舎僧と_レの宗論を_レ用と_レ申_レ立_レ通_レり_レて
上方_レの_レ系_レは_レ法華宗を_レと_レ申_レ子_レ母_レ寺
是を_レ穿_レ於_レる_レ道_レの_レて_レ進_レ法_レ法_レ問_レを_レ申_レ慈
以_レ何と一字の_レ返_レ答_レ子_レ不_レ能_レ上方_レの_レ進_レ道
亦_レて_レも_レ致_レ法_レ談_レ天台宗と_レ致_レ法_レ問_レ務_レり_レ也
佛_レ里_レ尾_レ州_レあり_レて_レ教_レり_レ談_レ識_レを_レ説_レ法_レ宗_レを
あ_レま_レく_レ法_レ華_レ宗_レを_レ入_レる_レ内_レを_レ一文_レ不_レ通_レの
且_レ形_レ日_レ經_レ談_レ識_レを_レ素_レと_レ思_レい_レな_レき_レ物_レ也

所用と申様以宗滿と申る宗那と
法華宗と内と不_レ然申_レ申_レけ_レと也
者樂院不用_レ

三日 將軍標後府_レ江戶_レ 涉_レ如_レ此_レ日_レ江_レ又_レ

將軍標後府_レ江戶_レ 涉_レ如_レ此_レ日_レ江_レ又_レ
涉泊今川心省建_レ立_レ之_レ氏_レ縁_レ之_レ

將軍標 涉覽

此_レ江_レ場_レ上_レ之_レ長_レ老_レ後_レ府_レ申_レ之_レ 内_レ府_レ標_レ血_レ麻

所_レ交_レ三日_レ涉_レ精_レ進_レ 潔_レ舟_レは_レ遊_レ宗_レ之_レ之_レ

申_レ子_レ涉_レ如_レ傳

十二日

一 内_レ府_レ標_レ兼_レ之_レ名_レ護_レ屋_レ申_レ之_レ 成_レ波_レ地_レ塚_レ目_レ亦

一 涉_レ如_レ傳_レ下_レ知_レ各_レ度_レ之_レ 上_レ之_レ意_レ之_レ申_レ之_レ今日_レ俄_レ

一 関_レ東_レ申_レ 涉_レ如_レ傳

一 此_レ日_レ 内_レ府_レ標_レ江_レ戶_レ申_レ之_レ 遊_レ涉_レ立_レ其_レ申_レ之_レ方_レ

一 涉_レ如_レ傳_レ申_レ之_レ 將軍標_レ後_レ江_レ戶_レ武_レ之_レ方_レ

一 府_レ中_レ申_レ 出_レ涉_レ 涉_レ對_レ面

一 十五日

一 傳通院内菅清始子惣直乃古井大炊政子以
九等織部勤

十八日

一 内府標江戶市 御名

廿日

一 下総國古河城燒亡城之松平丹波守
康長在江戶に留也

廿二日

一 内府標傳通院 御系

此寺是... 惣持... 増上... 方より
惣持... 也惣念... 与中道心者留也
子... 度寺... 三百石... 彼寺...
... 淡林... 信付... 雖此所
... 閑居... 地... 寺内... 而化...
... 子... 付... 度... 三所...
... 源... 名... 屋... 百...
... 七... 境内... 去... 日...
... 増上... 而... 中... 的... 廊... 中

得名傳此處以此廊山を以て守りて後職也

信付而化三百人斗は附 右廊山と駿河法皇の
子守りの事は同日不詳

前々此處の事も子守りも傳はるが如し
此處の事も傳はるが如し

一此月旅系部谷出羽守息と鶴屋伯耆守源信
鶴屋討谷守立也

一淡州彈正少弼長政妻子江戸川越

一生の渡波守一正禮妻女子江戸川越依り善治

後事不詳

一此月十日比叟内中國兩國少弼為此移信

此祝後駿府に系之白浪五百枚或三百枚 前信
吉守

式十拜
吉守進之各自夫江戸系之 將軍極出仕

十月

一此月東山大佛跡來年このは建中、付秀於

合と根と之杖末とを調

十一月

五日

一勇平貞徳信昌系於建仁寺之内新寺

建立從港別加納人丈お上り々々善治此の号
久昌

渠大海水性各列也... 經... 辟言... 法見諸善... 方等教... 此矣是法華... 明文... 此返答... 返答法... 雖責令... 咄人敢... 言... 宗... 論...

但法義常樂院... 法來... 院... 不可

明鏡... 遂勝利畢

判者多野山遍照光院... 於溪

牙一 常樂院 日經 牙子 牙二 上卷五 連源坊

牙三 坂元 玄礎坊 牙四 上卷五 五雄坊

牙五 上卷五 琳碩坊 牙六 日 可圓坊

右作牙六人脱衣

十六日

將軍標三浦生... 御成

一 此頃古方河内守於江戸為死河内守元織田
信雄之及之臣下也之存 將軍標^口石出

十二月

二日

一 内府極江戸之駿府^口 津波加る

八日

一 内府極駿府^口 義津 去月江戸津市向國東所之水軍舟
路向多厚務亦所為教之

廿四日

一 吾之友^{後号}之^{上世}所 義津侍從^{後号} 信付津近野流^{後号}人

諸之吏^{後号} 信付

一 此月八^{後号}十^{後号}ヤ甲國之駿府^口 以使^{後号}之^{後号}音信

内府極津床机^{後号} 津掛津腰波使^{後号}之^{後号} 石出^{後号}之^{後号}

船是^{後号}高船往來地也

一 於江戸之舟大款^{後号}利務出^{後号}對^{後号}之^{後号}重信^{後号}之^{後号}山

島出^{後号}即^{後号}本^{後号}知^{後号}一倍^{後号}之^{後号}津加^{後号}塔^{後号}之^{後号}之^{後号}

丹波篠山城 秋中^{後号}於^{後号}年^{後号}固^{後号}防^{後号}也 可^{後号}改^{後号}築^{後号}之^{後号}西國

南國之^{後号}法^{後号}大^{後号}名^{後号}之^{後号} 信付^{後号}若^{後号}信^{後号}之^{後号}之^{後号} 一城^{後号}若^{後号}也

一 平定^{後号}之^{後号}年^{後号}既^{後号}款^{後号}若^{後号}尾^{後号}別^{後号}之^{後号} 以^{後号}移^{後号}之^{後号}付^{後号}甲^{後号}別^{後号}

知沙去夏より石を替地より石に渡依り
下々大略逐電

一 小笠原系和泉守 破産後之也 自去夏在江戸也知沙

下送金估合めて二万石以下知沙之度常例

一 立間城 旧形 二万石以下

一 尾州古薩摩藩之殿 自關東相從法士由藩代より

近年は石拍少半大小 石限悉く放由所持者

その他又子令名薩摩藩に隠居少半あり

由藩代より石を自在に換地に付少知沙より

一 尾張國換地此以漸終此換地始方法給人知沙

は押置換地終り替地為り此宛沙也古來は沙

勤之由より百石より知沙に付古來は拾石宛近年

は拍流より百石に付拾石宛以下是依り新系宛

退散數多あり

一 三河國是助山守より由代官三宅辰之助由成箇

引負依り換去夏中は押置置置交親子三人

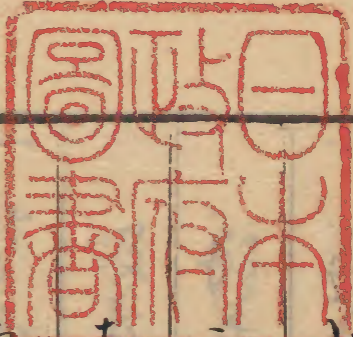
殺害沙に付

一 二三年前以來烟草と云お南蠻に渡日本

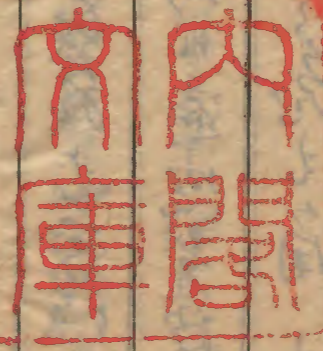
上下を既く人色法病と云然其此以吸く同絶
形死く者多南瘧と云醫術未解して云たを
吸者雖も教病醫書小此療法依之龍業與
一此多於後府内府標津前之也山遍照光院蓮華
三昧院對決を云く

此蓮華三昧院を於溪法下と云伊豆國
般若院の僧ニ云く此を又く智者海法同法
達僧之想る之也山を知少を児ニ云子ニ如
字同券り一山一扇小成此山之法也池下

成人の後余り云何謂く智者より一扇の
難如然其修り智能務まはるる也一
此於溪勝走り為一扇小の成然と云法也
ゆる何と云を付は半と云は遍照光院と
於溪少く出入を云く於溪を免も角也
所識の事と云は子を才子其は闘小る事
谷く者小付於溪を縛りりる也
妾河尋り好く深りり中中於於溪繩
を解せば後府へ下りりる也



止^るお遍照光院を繕りて形山^りめて成^す故
 言^は信付^り於^て溪^にて遍照光院を^り下^り後^に厨^に
 於^て語^りたり^し形^は溪^に初^にて寺^に蓮華^を三昧院^に
 寛平^の法皇^の以^て唐^に室^をて^り跡^も也^に依^りて^り此^を年^を
 涉^り唐^に室^をと^りて^り世^に以^て中^にり



紙数六拾枚

